



へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna Contents
「へら鮎」の題字/叶 九隻

No.477
Sep.2005

9

9 田中雅司【魚心掌握】最終回スペシャル 深宙両ダンゴ奥義伝承 with 岡野正基&糸井日出男

20 NEO-HERA2005 【第二戦 戸面原ダム】

釣り場割引クーポン券

野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼
集人大池 上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場
将監 柳生F.P 筑波白水湖 泉堰 逆井HC
友部湯崎湖 水藻F.C 甲南へらの池
三和新池 狭山HC 新座LC 川越F.C
府中HC 当麻池 多賀釣池 芦田湖水光園
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池 田島池
霧の沼 清川つくしF.C 小川つり堀園
三名湖・舟宿 光月 千代田湖・舟宿 千和
西湖・釣舟 白根 西湖・釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原 165ページ〜

●今月の表紙●

angler :
田中雅司
岡野正基
糸井日出男
field : 筑波流源湖
photo : 本誌・里
layout : 本誌・里

COLOR (カラー)

- 28 小池忠教 激釣大全
《第七回》千代田湖
- 36 名手・石井旭舟がいく、へら鮎出会い旅… へらぶな浪漫街道
《第三十二回》山形県・前川ダム
- 42 杉山達也のSPLASH BEAT III
《Vol.16》夏の三島湖真っ向勝負!!
- 49 棚網 久 あなたの夢を叶えます。
失業中の私にG魂を注入して下さい! ~ヤマ完全制覇~
ドリーマー:大串 博さん 釣り場:山中湖
- ★AREA REPORT
- 56,66 横利根川(千葉・茨城県) 本誌・伊藤洋一
- 58,68 鉄板沼(北海道) 北林正行
- 59,69 北陸の夏の釣り場(福井、石川、富山県) 山本一朗
- 60,70 大宮へらの里(岐阜県) 後藤 誠
- 61,71 阪奈園HC(大阪府) 前田誠志
- 62,72 尾黒池(福岡県) 河口正伸
- 63 柴舟 「至連」火入れ無料サービス実施
- 64 番外topics アマヤン&編集長、奥多摩湖の乗込みに遭遇!?
- 134 竹とともに生きる。
《第25回》心道 水落 稔
- 137 戸張 誠 野釣り道場
《第十六回》【西湖】
- 142 芝学園釣研究部、精進湖で夏合宿!
- 145 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!」
《Vol.31》【ストライク・ステージ深宙両ダンゴ】
鳥内正道登場! 筑波湖の大型を引きずり出す、脅威のペレチョーチン理論!!
- 150 吉川ひとみの「へらってヤバイわっ!!」
《Vol.38》椎の木湖で100kgを目指せ!!
- 154 稲毛師匠と編集部諸が行く、ODEKO危険度120%
《第9回》どんづまりの池(茨城県友部町)
- 158 番外topics 棚網 久、日光・丸沼に振り返り!
- 193 私の宝物
《Treasure.7》ゲスト:白石和弘さん
- 194 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.23》【ペレ宙修得への試練】 富里乃堰(千葉県)
- 201 北川穂積の全国野釣り行脚
《第8回》魚切ダム(広島県)
- 204 釣りの帰りに寄りたいお店
《file.13》恋瀬川近く【なみき】の鉄火丼
- 206 釣果予想クイズ
- 208 フィッシングレディ
《今月のレディ》杉山直子さん 武蔵の池(埼玉県)

MONOCHROME (モノクロ)

- 73 アカサカ釣具 へら鮎釣り教室を開催 羽生吉沼
- 76 へら鮎釣り 超基本講座
《第8回》両ダンゴの底釣り 実釣編
- 83 あらいしのぶの なぜなぜ しのちゃん
《第9回》「しのちゃん、ナイターで釣るまくる!」
釣り場・八光園(埼玉県鳩ヶ谷市)
- 88 NHCスピリット
《Vol.23》NHCへらぶなトーナメント関東シリーズ第3戦 三沢成彦 in 清遊湖
- 92 トーナメント小林恭之が挑む! 竿頭までぶっ飛ばせ!!
《Vol.21》吉羽園、プロジェクト・ウィン7月例会便乗!
- 99 江成公隆のトーナメント、復活への道。
《Vol.39》「水中王者チャカキング」
- 106 そんなモジリにダマされて… 天野正由
《その21》梅雨の中休み(奥多摩湖~芦ノ湖)
- 110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「ムジナモ」
- 115 どやさー 今月の釣り場 西田美明
《その9》懐古趣味が悩ませる分川池
- 118 最狂へら戦士養成所“鮎の穴” 漢タカハシ
《第三十話》【突撃取材敢行。鮎仙人をジャックせよ!!】
- 122 母なる湖… 琵琶湖べらを釣れ! 南 彦彦
《第5回》リクエストにお応えて長浜です!!
- 126 野田幸手園新聞
- 162 ワクワク管理釣り場情報
- 171 小売店情報
- ★へら鮎BOX
- 177 里ちゃんの新米編集長雑誌記
- 178 情報発信基地
- 180 ボイス
- 186 コラム『へら狂おやじと呼ばないで』 白石和弘
- 187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
- 188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
- 189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』 中峯伸行
- 190 プレゼント発表
- 191 広告索引
- 192 編集後記

STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えび〉
藤原 肇



この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！—のハズが更新滞り中！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.39〉
水中王者
釣カネズ
2005 summer in yokohama FIRST



先月号のラストで予告したとおり、今月は「カッツケ大会」である。
フィールドは、横浜の釣り堀、「やま喜フィッシングセンター」。
メンバーは、江成はもちろん、岡田 清、そして、洋ちゃんこと本誌編集部・伊藤洋一。
取材前日、江成が全員に出した注文は、
「とにかくマジに釣ってくれ」というものだった。
いったい何を企んでいることやら…。
取材当日、遅刻した里の目に飛び込んできたもの。
それは、目を三角に吊り上げた3人と、
すでにおかわりされていたフラシであった…。

by 里ちゃん

灯台デモクラシー。

「近所に釣りが場がない」と日頃から嘆いている僕だが、正直、反省せざるを得ない。今回の取材で初めて訪れた「やま喜フィッシングセンター」は、僕の住む横浜市にあったからだ。道が空いていたとはいえず、自宅から20分で着いてしまった。まさに灯台下暗しだ。ちなみに小見出しの「灯台デモクラシー」とは、単なる駄洒落ではない。「灯台下暗し」という言葉を思い出すとする度に、なぜか僕の脳味噌は「大正デモクラシー」を弾き出すのだ。どうやら僕の頭の中でこの2つの言葉は、同じ場所に仕舞われているらしい。パソコンなら初期化が必要な症状である。

取材当日の朝、ネットで引っ張ってきた現地付近の地図と見比べながら、カーナビをセットする。10年物のナビは、電話番号をたいてお手軽に設定というわけにはいかない。と、なぜか目的地付近に魚のアイコンがついている? …そう、思い出した。かなり以前、釣友の立崎君が登録してくれていたのだった。

*里ちゃん註:「バジエロでカッツとばしたとはいえ」に訂正!

猛毒。

今回の取材は僕にとって本当に毒だった。

岡田・伊藤の両氏に挟まれての一日。僕の釣果は当然ながら2人に及ばなかったが、振り返ってみて十二分に満足出来るものであった。丸2年ぶりのカッツケ両ダンゴ。初めての釣り場。出来過ぎと言ってもいい。しかし当日の僕は、そんな気分には全くなれなかった。

僕が釣った枚数はおそらく、両氏とたいして変わらない。3人も150〜160枚くらいの間だろう。大きく違ったのは「型」だった。

伊藤氏の釣りが良型が揃う釣りだとは、これまでさんざん書いてきたので、ここでは詳しく触れない。ただ、氏が「苦手」と言っていたカツケでさえ、これだけの重量差が生まれるのだということは記しておかなければならないだろう。そしてそれは、僕にとって想定外の範囲内であった。

当日の釣果

伊藤編集員	55 kg
岡田氏	47 kg
江成	42 kg

珍しく寝坊せず、一番乗りで駐車場に着いた僕は、仕掛けを作っていた。そのとき怪訝そうな顔で僕を見ていた常連さんから、型のいいのがけっこう入っているという情報を仕入れていたのだ。この時点で僕は、伊藤氏のブッチギリを予感した。

本来、釣りのスタイルにタナの垣根はない筈だ。底釣りからメーターまで全く同じ世界を展開する伊藤氏が、カツケだけ出来ないということとは有り得ない。伊藤氏が言った「カツケは苦手」という言葉が、もし謙遜ではないのだとしたら、「へらの型が均一で、しかもヨタバかりで、水面には真つ黒く湧くが、その下に別の層はなく、へらは薄い」というような、昔の典型的な釣り堀での「ハリスカツケ」のことではないのだろうか。だとすれば、氏の持味は発揮出来ない可能性がある。いつもならかわすべきへらがターゲットであり、氏のセッティングではへらがある層を通過してしまうからだ。だが、だからといって氏が全く釣れなくなるわけではない。ただ、自分の得意とするスタイルを崩されてしま

ので「好きじゃない」ということなのだろう。もし僕に勝機があるとしたら、そこしかなかった。

スーパースター岡田君の釣りは、僕ほど短バリスにすることは稀だし、オタクと呼べるほどセッティングへの執着はないが、伊藤氏よりは僕の釣りに近い。それでもこれだけの差がついている(当たり前だが)。

「午後から型が良くなったのは、ヒネをだいぶ間引いた(釣り切った)から」と謙遜した岡田君だったが、昼の休憩時間に伊藤氏のセッティングとエサからヒントを買っていたのを僕は見逃さなかった。岡田君はそういうところが非常にフレキシブルである。岡田君とは違い、自分のスタイルにこだわり続けた僕はただの頑固者のように思われるかもしれない。が、それしか僕には勝ち目がないと思っただのだ。だいたいこの2人に勝とうと思つて自分が大バカなワケだが…。即興で相手の釣りを真似て、さらにその上をいくセンスは僕にはない。もうちょっと釣りに行きてえなあ……。



本気(マジ)バトルではあっても和気あいあい。ギャラリーも交えて笑顔は絶えなかった

「見える」ドラマ。

先月号で触れた、伊藤氏が感じたメーター規定の限界とは何か。それは「ルールの曖昧さ」と、規定が生み出す「安全地帯による弊害」に他ならない。だが、自由釣り規定の池にはどちらも存在しない。言わば「何でもアリ」なのだ。

今回の取材で、もっとも水面にへらを湧かせていたのは、実は「カツケが苦手」な筈の伊藤氏だった。当日の状況で、もしカツケ初心者の方がエサを打っていたとしたら、釣り切れないことで收拾がつかなくなり、やはり水面にへらを湧かせていたことだろう。しかし同じ「湧かせる」でも、へらの動きを見ればその違いは一目瞭然である。伊藤氏のウキのまわりのへらはエサ打ち直後でもほとんど動かず、つまり氏が湧かせているへらはエサの芯を追っていないということになる。これが何を意味するか。エサの開きを合わせることによる完全なるへらの分離。氏がもっとも得意とする、へらの活性の違いを利用した「芸術的な通過」である。しかもターゲットではないへらの傘を作ること、下層のへらの警戒心を解く効果もあるだろう。規定ではなく、釣りの技術で作る安全地帯なら大歓迎だ。

お断りしておきたいのは、決して僕が大袈裟に書いていたわけでも、氏のウキのまわりのへらが究極のヨタバかりというわけでもないということだ。証拠がある。水面に姿を見せるへらをターゲットにしていた僕と岡田君のウキのまわりには、釣り続けていくとへらの姿が見えなくなってしまうことが多かった。釣っても釣っても湧きっぱなしというのが僕の好きなカツケなのだが、残念ながらそういう地合ではなかったということだ。

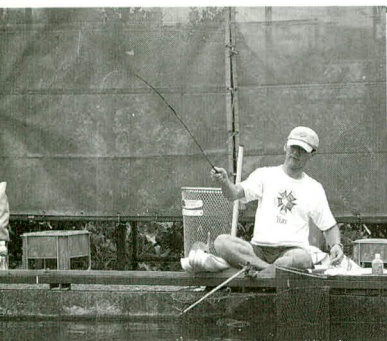
間違はなく伊藤氏よりは締ったエサを打っていた僕。ただそれだけで、水面のへらはエサを追った。全くやる気のないへらではなかったのだ。しかし、ターゲットにして正解でもなかったということになる。

さきほど、「釣りのスタイルにタナの垣根はない」と書いた。これを、「魚の行動パターンにタナの垣根はない」と置き換えたらどうだろう。どのタナでも全く同じことが起きているのだ。「ピンポン」だの「抜かす」だの、見えない水中をさも見てきたかのように語るへら釣りの記事に違和感を覚える読者は、一度カツケをやってみるといい。なにせ、全てが丸見えなのだから。

「見える魚は釣れない」というのがある。カツケをやってみると「そんなこともないな」と感じるが、エサを打っても全く動じないへらの存在にも気付く。魚にとっては最も危険な水面というタナに居着くまでには、幾多の修羅場を乗り越えてきているはずなのだ。へらの学習度合はどのタナよりも高いはずである。そしてそういうへらを形容するなら、「スルイ」というより「ぶてぶてしい」という方がしっくりくる気がする。



江成の数が少ない自作勝負ウキのひとつ。カラーで見せ出来ないのが残念！ トップの目盛が全て違う色で塗られており、ボディの肩まで塗られてラインホーになっている(里ちゃん絶句)。これはもうトウガラシウキだ。ちなみに江成いわく、ウキとオモリがこれだけ離れた(ウキ下を深くとった)時点で、このウキでの勝機はないのだそうだ。あくまでもウキ止めとオモリの隙間がゼロの、ハリスカツケを前提として設計されたモデルとのこと。って、この二人に勝とうと思っただけじゃないか！ いや、第三者の目から見て、江成の現在の釣行回数でこの釣果は、実際驚くべきものである……



帽子嫌いの江成が二カ月連続で被っている！実は坊主頭に飽きた江成は現在、髪を伸ばしている途中である。中途半端な伸び具合を隠すための帽子というワケ。なお前回に引き続き、appleの服で登場。今回はカラフルなiMac(アイマック)のTシャツ。…もう結構です、ハイ



岡田 清の釣り姿。右膝も上がり、全神経をウキに集中。しばらくの沈黙のあと、ようやく出口を見つけた岡田。舌を出して？「どうじゃあ」…と、思ったら痛恨のバラシ…。ホント、悔しそうですね。「Deep〜」では決して掲載されない貴重なショット*？



昼休み。豪快にカツ丼を食らう岡田。これも「Deep〜」では決して掲載されない貴重なショット*？



当日の伊藤編集員は取材免除。とはいえ写真撮りでのロスタイムもいくらかはあった。にもかかわらず、2人を抑えて竿頭を奪取。まあ江成は当然としても、あの岡田 清も抑えるとは！ 極上のフワフリタッチ、それに、カツケとは思えない、長めのハリスで、ジワリとナジんで型物揃い。様々な意味で、「前代未聞」な事件であった…



午後、飛び入り参加で賑やかになった取材。増えたフラシに注目！（池の独自規定で7kg交換）

*江成本人よりも岡田氏の写真が多いのは、岡田 清の「other sides」を暴露したい江成の陰謀である…

「一本バリのエサは、2本バリよりしっかりとエサになる」と、導き出してしまうのはマズい。最初から1本バリでエサ打ちをした場合に、2本バリと同じ量のへらを集められるかどうかは分からないのだ。へらが濃い釣り場では、「1本バリは簡単」と言われることが多いから、完全ではなくともエサの量とへらの量は比例す

と、分かっているのだ。それでもつい打ってしまうのは貧乏性ということなのか。皆で大笑いした。その後、岡田君と僕とで、1本バリと2本バリの違いについて盛り上がったので、少しまとめておきたい。
2本バリでエサが持たないのはなぜなのか。これは、集めているへらの量に対し、エサの量が足りないからだ。先月号に書いた「小エサによるシメ」と同じこと。反応が弱い時に行うのはいいが、地合が出ている時に行えば反応が強まってピンポンになる。当然、持たなくなるわけだ（もっとも着水した瞬間に食ってアタリが出れば問題ないわけだが、少しタナをとったり、ちよっとモタついたりするケースの方が当然多い）。あまりお勧めしたくはないが、難しく考えず単純に、「密度に対してアマイエサ」になってしまったと捉えてもいい。しかしここから、

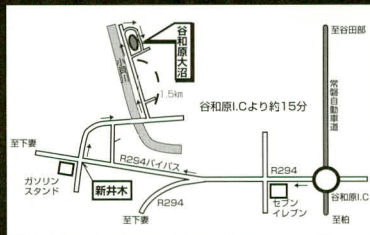
取材後の雑談。カツケにはつきもののハリス切れの際、すでに左手に用意されているエサをとりあえず残されたハリスにつけて打つかどうか、両氏の意見を聞いてみた。すると、僕も含めて全員が「打つ」ということが分かった。しかし、3人も、「結局エサが持たなくて無駄な1投になるんだよね」と、分かっているのだ。それでもつい打ってしまうのは貧乏性ということなのか。皆で大笑いした。その後、岡田君と僕とで、1本バリと2本バリの違いについて盛り上がったので、少しまとめておきたい。



大小、様々なへらがぎっしり！ カツケから底釣りまで、思う存分腕を磨いてください！！

アたる！ 釣れる！

谷和原大沼



●入場料 1日2000円 半日1500円
女性・中学生以下 1500円

●営業時間
4~9月 平日 6:00~16:30
土日祝日 5:30~16:00
10~3月 平日 6:30~16:00
土日祝日 6:30~15:30

●規定 竿7~18尺 タナ・エサ自由
(生きエサ・一本バリ禁止)

〒300-2400 茨城県筑波郡谷和原村根新田228
☎0297-52-2763

大型新べらの強引を味わいに、ぜひお越しください！！

るケースが多いだろう。「寄せ過ぎない」という話である。

カックでは「寄せ過ぎと思われちゃうくらい湧いている」のが好きな岡田君と僕としては、一本バりに密度の抑制という効果はほとんど求めない。問題は、「一本のハリスでサワリ(ウケ)とアタリが連動するかどうか」である。僕と岡田君がどんなに水面のへらをターゲットにするといつても、湧いている全てのへらが同じ活性ではない。十分寄っていると感じられても、目の前に落ちて来たエサ玉にすぐ飛び付くかどうかは、やってみなければ分からないことなのだ。もし、飛び付かないで見送られてしまうケースが多い場合、そのままブラさせて待つのはカックのリズムとしては気に入らない。ハリスを伸ばしてもたいして好転しない場合、どんなにガチャガチャに湧いていたとしても、迷わず2本バりにチェンジだ。注目させる(追わせる、見送らせる)エサと、食わせるエサ。上下に役割分担をさせるが、ハリスの段差がタイムラグになるので、とりあえずエサそのものやエサ付けは上下同じでいい…って、これは普通の2本バリの考え方である。全く基本通り。

僕は時々、「3-5cm」というセッティングになることがある。これはさすがに僕の好みの領域であって、一本バりで十分釣れる場合である確率は非常に高い。ではなぜそんなセッティングが生まれたかと言えば、僕が所属していたゴールデンクラブは一本バリ禁止というルールがあったためだ。古川 実君の「タイトハリス」と同じく、一本バリを究極の理想として出来上がったスタイルだ。いまや全く関係ないルールだが、寄せパワーを優先する僕は、ついつい一本バリよりこのイカれたセッティングを選んでしまう…。

「いつでも一本バリ」とか「一本バリは釣りじゃない」など、色々な好みの人がある。池の規定や様々な事情で出来ないものは仕方な

い。しかし、いつも書いていられるけれど「同じ釣りだけをしていては見えない」ことはたくさんある。たった今書いた「2本バリの考え方」だって、知識としては誰の頭の中にもあるが、一本バ리를やってみたいと実感出来ないと思うのだ。

*里ちゃん註：7月号「それって」に登場した古川 実氏と江成との接点は意外にも古く、10年以上前に遡る。「セッティングに移行する際も必ずダンゴから入る」など、共通する部分も多い。お互いに影響を与えあっていたのだろう。里がまだ学生で、トップトーナメントの皆さんを「羨ましいナ」と眺めていた時代であった。原稿チェック完了の電話で、ちょっと江成を誉めてみた。すると江成は、「だろ？俺のは段差2cmだからな！スーパータイトハリスってか？」ときた。誰かこのバ力をぶん殴ってくれ…。ウソウソ！ そのくらいの心意気ですよ、アニキ！



6月号、里ちゃんの書いた冒頭文の中に、僕が仕事にやりがいを見出したというコメントがあるが、確かにあの時はそうだった。自分で書くのもどうかと思うが、CSで社長賞をもらったり月間新規顧客獲得数も全国上位にランキングされたりと、入社以来もっとも充実した毎日だった。だが「もう飽きた」。どんなに頑張ったところで歯車ではない現実には変わらない。「時間の切り売り」という感覚に逆戻りするまでに、そう時間はかからなかった。

たしかに給料は若干上がった。けっして自分の小遣いが増えるわけではないとは分かっている。異動当初の「やる気」のひとつになっ

ものは「慣れ」の前に消え去る。ありがたみは全く感じられなくなってしまうのだ。

次男の誕生と職場の異動。偶然に重なってしまった2つのイベント。生活の様々な部分で変化が起こり、幸せ気分だけではいられない。大きなストレスになる筈だった。しかし、「仕事が楽しくて仕方ない」と感じた僕には、ストレスを感じる余裕は全くなかった。これは今思えば、予想される大きなストレスを乗り切るための、無意識の自衛手段だったのだろうと思う。今頃になって、仕事にウンザリしている僕である。

春、現状維持を選んだ僕。2人の子供の顔を見てみると、大きな博打は打てない。「現在の仕事が嫌になって」という動機は自分としては許せないのだが、転職を考えるタイミングとしてはおそらく最もポピュラーなものだろう。僕もまた気持ちが揺れてきたが、必死に自分を説得する。「やりたいことが仕事になっている人はひと握り」。仕事にやりがいが見出せるとは限らない。「お仕事とはカッタルイもの」であり、どうにかして自分をごまかすしかないのだ、と。

取材後にかかってきた岡田君からの電話。彼の関心は伊藤氏の釣り一色だったが、僕の関心は岡田君の独立開業への道程だった。江：脱サラして商売(焼鳥屋)を始めるにあたって不安はなかったワケじゃないよね？岡：当たり前ですよ。メチャメチャ不安でした。

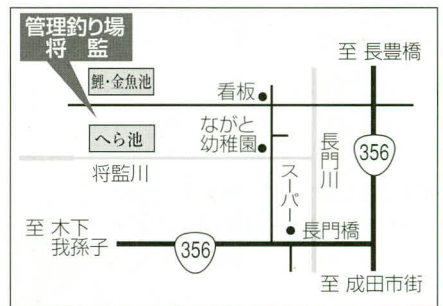
江：だよな。じゃ、どうやってそれを乗り越えたの？普通はその不安が解消されなくて、踏み止まっちゃうと思うんだけど…。岡：勤めていた頃はそれなりの給料ももらってましたし、生活も安定してました。でも、

このままじゃ自分でいられないなって思ったんですよ。家族サービスが少ないダメ父ちゃんかもしれないけど、遊びでも仕事でもオヤジはいつも夢中でやってたなって家族に思っ

〒270-1523 印旛郡栄町脇川96
☎0476・95・0409

管理釣り場 将監 (しょうげん)

- 営業時間 4~9月 日の出~17時
10~3月 日の出~15時
- 料金 平日 1,500円 半日(11時~) 1,000円
土・日・祭日 2,000円 半日 1,500円
女性・子供 1,000円
- 規定 竿8尺以上
- 鯉、金魚釣り開設！
営業時間 9~16時(平日、日曜共通)
2時間1,000円(貸し竿、エサ一式込み)



釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の路入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）
03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）
044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）
03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）
044-711-8266

鮎仙人（神奈川県川崎市）
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとろえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

てもらえたらなって。いつもイ顔でいたいんです。

江：うーん。それって究極って言うか、みんなそれが理想じゃない？ 僕だって子供を必要以上に怒ってしまったら、疲れた表情を見せてしまったりで、休みの度に自己嫌悪してますよ。だからといって、じゃあ好きな道で食っていかうかっていったって、食べる保証はどこにもないし。失敗すれば今以上にイ顔出来ないわけじゃないですか？ 僕は、やることはやったから、文無しになっても笑顔でいられるような肝っ玉は持っていないので（笑）。まあ、世の中すべてが結局やってみたりや分らないんだぜ……。

岡：ただ、僕は不安と同時に自信もありました。この味ならイケる！って。でもやっぱり、やってみなければ分からないことなんで、責任ある身でありながら大勝負に出た罪悪感というか不安は凄まじかったです。でも、カミさんは応援してくれました。そういう意味では気が楽でしたな。

江：ウチの場合は多分ムリだし、女房の反対を押し切ってまで商売を始めようとは思えないんだよね。それはなぜかっていうと、岡田君みたいな自信が全くないから。実際、女房は聞く耳が全くないわけじゃないと思うんだ

けど、こちらの説得材料が乏しいんだね。だからヤメトケってことだと思っただあ……。ただ、今の仕事で10年20年後に体がついていけるかどうかも不安なんだよね。ギリギリまで引張って、いい歳になって次の仕事を見つけてよったって、もうホントに厳しいし。若ければ若いほどリカバレル確率が高いのも事実だし……。

岡：でも今の生活も放棄したくない、と。

江：そ。欲張りだよ。頭冷やすわ。

岡：……人生一度きり（ボソッ）。

江：なににいー！？



取材のちょうど1週間後、4月号に書いた伝説のトーナメンターO君（その前は実名だったのでバレバシだが）や立崎君、まこと君（そのまんま「まこと」作者）達と、三島湖へ出掛けた。その数週間前、O君の後輩のヌー君から電話で、

「たまにはみんなで野釣りでもどうですか？」と、誘われていたのだ。7月はとくに仕事が忙しいシーズンのため、希望通り休むのはかなり厳しかったが、何とかあった。残る間

題は家族だ。休みが少ないところへ持ってきて、2週連続で釣りで不在のババ。しかも貴重な土曜日。これはつまり、「今月は家族サーブスはナシ」を意味する。女房からの厳しい非難を覚悟したが、意外にも快く送りだしてくれた。最近の僕の疲れ切った表情を汲み取ったのか？ いや、女房だって4カ月の次男の世話で参っている筈だ。ということとは……

「保育園が夏休みに入れば平日でも出かけられるから（ニヤリッ）」

なんだ、そういうことか。……いや待て。8月末までこっそり平日休みに抜け出すのも難しくなるんじゃないか！

半年振り再会したO君は、一段と瘠せてまるで別人だった。大きな病気をしているのかと心配になる程だが、本人いわく「ダイエツ」だそうだ。昔の彼しか知らない人が見たら、おそらくO君だと気付かないのではないだろうか。というより、あの古川実君と間違えるに違いない。それくらいソックリである。そのうち2人を並べてみたいと思う。

「このままケンカ別れでいい」と書いたものの、2人の間は雪解けとなった。半年前的一件についてはお互い、特に触れなかった。僕としてはこういう終わらせ方は珍しい。O

君にしてみても、半年あけて何となく元通りというのはレアだと思っ。好き嫌いのハッキリした彼だが、僕に対する気持ちには整理がつかなかったのだと思っ。正直嬉しかった。僕はきつとこの先も、一生つきあっていくのだろう。

久しぶりの三島湖は、大量のへらが迎えてくれたが、ウキの動きの割に枚数は伸びなかった。

「魚はいるよねえ。ダンゴじゃ厳しいのかなあ……。これ、上手な人がやったらどのくらい釣るんだろ？」

O君の一言だ。以前の君は「上手な人」ではなかったか……。どのくらい釣れるのか見当がつかないのは、自分の釣りに自信がない証拠である。自信があれば、いい悪いは別として、自分の釣果がベストだと思える筈なのだ。いるへらが全部釣れるわけではない。彼もそれだけ釣りから遠ざかっているということなのだ。

次回もカッツケ！だそう……。今月もなげに途中から話が横道に逸れるアニメだが、来月はさらに突っ込んだ内容に突入することを期待したい。「水中王者チャカキング」、次回の取材はいつだどこで!?

by里ちゃん

へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

9

〒400-0201 浜松市東区 1-1-1 日新ビル 402号室 発行所 日新ビル 402号室 電話 053-431-1111

田中雅司「魚心掌握」

最終回スペシャル。

岡野正基&糸井日出男を迎え、

「最強の競演」が実現...!!

深宙両ダンゴ 奥義伝承



40th Anniversary Year 40th Anniversary Year
40
40th Anniversary Year

その力で、持たせて、芯残り。

流行のヤワネバ系ダンゴエサに。 しっかり持たせる、「粘力」パワー。

いよいよ両ダンゴのシーズン本番。 最近のエサの傾向は、やっぱりヤワネバ系。 狙ったタナまで、しっかり持たせるのが難しいのです。

そこでおすすすめしたいのが「粘力」。 専用スプーン1杯分を加えるだけで、 練らずに、簡単にエサ持ちがアップ。

ヤワネバ系だって、

ギリギリまで踏ん張りが利くように仕上がります。

浅いタナからチョーチンまで、

幅広い釣り方に使え、

エサづくりの最初に加えても、

使っているエサに追い足ししてもOKです。



●粘力(ねんりき)計量スプーン付き

流行のヤワネバ系ダンゴエサに。

